中村俊定文庫
文庫 18
704

山里にひとりの翁ありおもふにふる世にあそべる人の
ける緒せきはじめ古今の道をわきまへしはて
そ小さき事に晦き世のあはれをしるよし身をよせしの
虚句をつらね性を養ひ寂然として生涯を
おくりあるは書を携へ出て世をさける
みちもあらんちかふ世中を離れてろよしみ
性のはてに囲碁ありあそびしかるに秋の
いつしか折やすき風情に心を寄せて節なと

なりしまゝ[illegible]
ひゝ山[illegible]なる幻の[illegible]
[illegible]
[illegible]
師の[illegible]
あな[illegible]
き梅[illegible]
ちゝ[illegible]

ことゝ雪のさゝ[illegible]
のさゝ[illegible]
世を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
むゝ[illegible]
[illegible]

此のりかや望をのかれて四しはいつか梅影の
年ひさしきかぎりにしも西の空へ
飛行なりし鳴呼悲しいかなあはれなる
より「ちる梅も月のひかりに咲のあはれと
高続しよみて「白梅やこの暉て行
こゝに世つぎ無くしてぞ嘆きしに先生
法號の跡も法名は大夢一醒の四字なり
あらはしなりて梅を友の墨に勝ること

「さを思ひの花を深く愛して古き
さまざまなる者あまたの新しきの
人に贈りし又御精舎に法名を
まゐる是月をこゝろの道徳し
世の遊をしの梅の一句を遺しての一生を
いとおしむ者を此好きたるを向捨ず
名のりて一集を編む遊びてよろしく白地
に書し梅集と名付くるもとなる歟

[illegible]

[illegible]

寛政十年
秋のはしめ

二雨亭乃木識

虚白居士遺唫

春

元朝や門へ出し入れ見る暇ひ

梅若れ香や起きさけ鳴乃鐘

出代の名残惜しきる桶取

若鮎や影もみとりのあらし山

みよし野の花に荒布の贄哉

行春の日和に残るうらゝ哉

夏

松下ぬる日や五月雨
蛙の鳴るうゝ雨くらの夕まぐれ
ぎいくと枝たつ山や夏の月
青鷺の一こゑ閑寂やまの家
虫干や寺よりうつる源氏の間
蚊やりやや湖水のあなれ十万石

秋

秋を追ふ打もひしをれ相一架
ともに辞さりあれ注上戸
此ごろの市のうちさよ鶉の声
うゝ枯や神主のくるり杖
雨そゝ日菊ふかしうゝ桂望
かゝる貧ゝ盗人おかれ孤月

冬

菜の花や炭焼なるゝ二方塚

大根ひく音れ居内見姉子音れ

手洗や今さよしれぬ綾の袖

麦蒔や雪よ泣よれ鶏き

乗るて田をうれ子れ鶏共

古暦うらに拙かく　名残玉祖

追善之俳諧　虚白居士

さゝ柿や三日かゝやきて霞ゝ

雲ちゝ無なく春の大雲　二木

帰る丁琴れ爪音かゝるし　湖友

盃部屋て巧ゝ寄りう寄　東州

既丁今宵のうち春る宿の月　李人

角力ゝ無巧ゝ　卜亀

此秋の涙滅の佛の出興世　吾山
半年庵に八月より　狀　奥石
形ばかり玉城むすぶる　雨の宗　榊下
三千丈の白髮いかに　子直
何事を思ひ思ひて玉の宵　其翟
供養の杉の梢より　波洲
歌舞を拂ふ嵐の松の風　去草
小鳥の鳴くより　露入　編幅　奥年

此度と聖の巧より　嚴き所　素卿
さく兵粮の軍惑めくも　羽扇
花もまた花の盛りと成りし　盟鴎
壬生狂ひの面の功岩　馬来
埋み火ひとめて年の思ひ出　白居
出づ〳〵そうそう空蟬の巻　芦水
ゆかしむかし鳴　其跡
堀寺の瓶の字かな宗の浅　仙蘭

三伏の夏もてゝ所の赤さうら　卯牛

見さらぬ奥の名を問て足れ　兎耕

波一場の砂の玉言る翁わし　一隠

さなれうらし　碧の大津絵　賢昊

子孫繁昌貧苦子孫の後家　南圭

利生の神入るまれかくやく　暁斗

冬このまゝの枕の刻まれ　月れ乳　未儀

蓑ぬきすてゝ撞木撞よ　涼甫

新柳すそ巧をなるとゝ　太の

果て足をてゝ咲きたれ　其ト

加うるめに加うる四寸の霧七日　朱鴉

さびれう膝を　なほを脱息　楊爰

ちまれ花も　おもきの蓑なれや　是月

素うくれ水下浦の富士　執筆

一坐捻香

梅ちらす折ふしきゝ色ふかし　新居僧　栩然

深く行く道もはるゝ雨の末　芦水

初ちるを花とやいはん雲の雪　魚石

折くるるいきもよそへの梅ゝ　柿下

下葉より行かれ塚のうゝ越し　子直

鶯も声ばかりなる山ゝ　其翟

雪ふりはて四方をうめて日の水さ　波洲

ちらす今ちるや椿ゝ一物　君山

みれば手ぬぐひ花ゝ　湖友

浄雪の折ゝ　牛夷　無東西　奥年

ちるよ春ゝ道をうめる霞ゝ　東艸

百ゝ物きゝ所をいとめる　卜亀

涼ゝ雪ゝ朝御ゝ　素卿

梅ちりて侍ゝ　夕まゝ　羽扇

初夏ゝ心ゝ　ゝ　伍蘭

たいこ[illegible]死下火れ煙や夕霧　其跡

胡蝶[illegible]なりてかなしく別まし　白須賀　李人

嘗て孤より[illegible]れも[illegible]白水　涼甫

まの[illegible]れ[illegible]とおまるつれ　兎耕

花ちるて[illegible]れ[illegible]枝[illegible]多れ声　女士の

虚白い多年[illegible]ぬ交[illegible]

[illegible]て旦[illegible]なるしす

なれい

月入て[illegible]る　[illegible]やわう[illegible]　二木

[illegible]の雪[illegible]

[illegible]人を[illegible]思　英積

[illegible]人の行[illegible]飛[illegible]

[illegible]れ[illegible]の[illegible]　入野　尚規

此[illegible]れ[illegible]の[illegible]

[illegible]煙の[illegible]れ　細田　龍麿

[illegible]れ[illegible]人[illegible]山の[illegible]

[illegible]尼　沿東岡崎　知了

入月はかすめる雲のきりぎす
しをうつれを歌一人の
きりぎすを歌うするよ

無常しいはしなうの雲きえの雲　淡松　白輪

きく梅や枯れをかける扇うち　徐生

生てあるきのりをを別て就　釈　栖也

なれ説よ見ふを見て月しれ　知白

そうれ一や代て消しと春の雪　和栄

きまやこの雲ねくれを見向ひ　蘭洲

星ひかりなうれく庭一花の山　湛露

雲きめくまあてきよりうの春の代　可遊

なくいかりうきこと　花の加年　知暁

あくれ一れうれ山も笑ひ花の日ろう　起石

ふ向きい心星ろうて梨入宅　東白

月のくうめ一なるき物の乳きし一　約我

白向ろや三名はうれ雲の水　茂水

夕ろれく霊香加ろれ雲白ひ　白皎

元の実い記をく杉れ笑ふ哉　不求

寺住ほそ岩梅をしたる墨ふれ　馬郡　去艸

杉もれきや朧月の梅を多ゐとい　烟波

第三ふ多ちふ所　岩る椿　古塘

十碧とふふ多下れまの和ま　宇布見　盟鴎

いふふ世と和梅し　岩る人や　馬来

なき訪や鳥入寺さへ寺涌し　白居

虚白ふふふ　杉の上と例見坂桃手の文ふあも

短冊ふ如はけきふ城手ふ容穂ふ
碧上文あ例ふもふやあ記訪の記会
ふいまふ寺れ

みふふあ湖も寺ふふふ八重霧　志賀呂　是月

時一や杉ふる野色ふふの煙ふ　菊兒

あ記人ふ伏ふ伊ふて眺ふ月　白洲　其卜

あふ記例や寺ふれの手洲ふ　伊五地　木移

集ふて時や雪解の山ふふも　和地　橋義

月ふふふ杉ふる入ふれ洲ふ　琴波

梅ちや名ゝ吉ゝ愛の記念ゝ　舞坂　臥牛

主人乃伊見せよ　唇氣樣　素儀

にをゝゝれ友ゝ　まひぬ柳　奥観

吉の見ゆくく思ふ友ゝ　二俣　石龍

名のゝ世ゝ　西川　鯉昇

杉の方に　梅垂れ内乃ゝ　駿河　鬼卯

流雪にぬれゝ杉ゝ　信州　呉山

う先の毛ゝ向ゝ　平谷　蓮道

春内や思ひ　二川　南圭

夕かゝゝ　暁斗

見うゝ　鶯や　海　一隱

目下ゝ　浮世の　賢臭

きゝ　杯子

四方ゝ　千左

なゝ　百甫

桂ゝ　田原　橙雨

なれ人を隠す春の雨　梅歩

そなたなる人待花をすげ　女千枝

湯殿や寒くうれしく雨ぞ人　以笑

帰りていとゝの佛や雪　無一

出るの茶を新しう月おぼ　読花

宮も墓所のうら向を時ふる　梨滴

ちとせ寺新よ東海のうら京　霍飛

梅ちる〳〵樹〳〵吹のこし　女之

それと見て白髪いぬ清の雲　麦甫

なれ詩を書やい水の花　畠村子花

梅ちるとそしまぬ人をなうる　風来寺一貫

浮世游や竹の杖道も学ぶ人　巴竜

東風吹やそなる人の竹なり　新城雪之

糸きれ〳〵風中のゆく西の空　読二

をしめるその甲斐を新し蕨桂　季桂

婆羅双樹詩をや春の風静ら　竹阿

をしほるゝ袖と掛かれきり　京夢
根ゑ帰る雲れうれの佛手　菊五
末遠ゝをしめと雪ゑ別きぶ　柳枝
ゝる風やけて悠ゝ浄土へ　野伯
祝うゝ霞のきめ中浄土入　梅志
玄奥も空うゝなれ世と成ゝ　冬里（浜地）
古の春ゑ十八粥と　其雄（斉木）
伊ゝ寺きのゝ　其筆（為當）

歳りや寺行きい小ぶな柳ゝ茶　如水（森）
昔の行ゝ又るも掩れ月ゑ氣　南枝
ゝゝの馬や寺ゝ紅梅ゝ　木蘭（伊馬）
ゝうかめて松のみゝも眠ゝ　雪嚮
寺ゝ雪ゑ寺ゝ雪ゝ　白亀
寺ゝ話や山の笑新ゝ　群鴻（西方）
柳ゝ香ゝ分て寺れ　子好
寺風みゝや山ゝ寺れ伊り　志帆（畠）

[illegible] 李成

雪[illegible]ていうなる今は枝をれて　魯石

梅の香も[illegible]ゆ夕　鬼堂

なき俤の秋とまる　銀竜

毎秋ごとにきえつゝ[illegible]の雪　石羊

飛ぶや梅一枝の[illegible]　安楽土　寒石

あつ美をさめておられむ書をる　畔

心[illegible]一霧ある[illegible]　茶逸

是就

洗雪[illegible]きゆる[illegible]ゆ南無釈尊　狸卜

梅の香[illegible]りや法の[illegible]　南湖

小松引てる代の[illegible]ゆ塚もし　五芳

洗雪や[illegible]世なる人を注く　圓之

琉[illegible]ゆ[illegible]て世のつゝれ　菖雨

[illegible]の集[illegible]の夏　覩月

[illegible]や面[illegible]の[illegible]　閑伽の水　舊好

[illegible]の花ちゝて[illegible]手[illegible]　公石

行ちれまや　うきうれ　発句　拙哉

墨ゝ友の減ゝい冨ゝ
ゝも俳ー

菱ゝよ十八歩を　まゝ　仮　栗津　重厚

雛ゝ　後寡ゝ　新ゝ　祐昌

その孫ゝ中の八日ゝ
きゝ

春ゝれ　ゝの　京　方廣

西行ゝれむ
春ゝ五東ゝ詩

梅ゝや　ゝれ　花金

ゝ菱れ　義や　雪玄　洗ゝ　俺武

その人ゝ訪ゝ古戸氏の
訪ゝ俗ゝ
ゝ

見まい也ゝ　ゝ菱人の古年の　辰毒　大江九

六ゝ芳ゝ
祖義百四ゝ金下ゝ方毒
ゝ義仲ゝ
毒ゝ
ゝ老人ゝ
ゝ
ゝ神ゝ

ゝき新や　ゝ菱ゝ　俳中竺園　ゝ山

君に老人所望の事ありて
きさらぎ三月あるべきを
後故せられしよりて
和の毛不知人に京の水　角後四房　古声

君公子出世むけきま
きさらぎ三月くれ
生えけるか

住吉神主の毛　伊勢白子　宇兆

書音

縣居六位まうし　京　広吉支　都雀

やよひ入日の殺いそぬ男子　月峰

そは詩紙それなるまに秋くれぬ　雅石

父母の御門巨燈の右手　女　露香

旅り

花ちりて佛免ちやよ　近江　去何

雪の完既　見まい清水うれ　馬孤

初蝶に炉に入て　放生会　但馬　西厓

連翹や[illegible]れを[illegible]こしらへて　魚眠

風吹て[illegible]や　子鶏の次みぢく　鞦韆

[illegible]れ藻に[illegible]や海松の[illegible]　伊中　文星

名月や元日そしら　峰の雲　路代

[illegible]　朝[illegible]　桃二

一日も一日[illegible]れ　[illegible]　右汀

[illegible]　李朔

初蝶に炉に入て　放生会　但馬　西厓

連翹や[illegible]れを[illegible]こしらへて　魚眠

風吹て[illegible]や　子鶏の次みぢく　鞦韆

[illegible]れ藻に[illegible]や海松の[illegible]　伊中　文星

名月や元日そしら　峰の雲　路代

[illegible]　朝[illegible]　桃二

一日も一日[illegible]れ　[illegible]　右汀

[illegible]　李朔

[illegible]　伊賀　五有

[illegible]　槐主

[illegible]　呉川

[illegible]　丹後　青譚

[illegible]　朱越

秋きぬの初しぐれや　秋十月　尼　秋雨

出家して見よとてきりぎすの　岱雨

枯菊や御門未だ入給へ　豊後　菊男

秋あつい扇子の骨しまれ　麿牛

化病の蕭然として蕭国亭　杜由

秋ふかしとあるきいそぐ馬耳　馬耳

名月やうつくしき月を加賀の　尾張　雨柳

古い菊や秋の山のあるいて　黙杖

未だ咲や懸の三日　紀寺　立律

つゆ寒し成おもひ寒の哀れ　伊予　菊花

静かに蘭よりあるる秋の月　柳荘

雑子なく峰に残る雨の雲　吳服　文蘇坊

秋も終り明るい山の山の哀れ　風燈坊

山鳥の尾ぬきくらす夫婦　伊勢　他力

うゝ枯や何内かなれの道ゆゑ　蘿道

初拾ふ鴨の子を引き寄る　江戸　成美

ものをわるゝ雪に肥る石蕗の花　雨銘

白ひあるゝ人の行られし鶏頭花　筑前　蝶酔

初秋や蛍生る中の黒ぶち　魯白

雨ふれや物ぬれあるぬ柿の香　蒲人

六二禅の主ゝ仕ぶ新　槿一郎　日向　可苗

ゝ〻〻のはやの千ぶり　梅發

送り火の新やうぬ物の上　芳峯

極楽い猫先ゝ有ぬ夏れ日　可水

八ゝ咲かいあるや鳴ぬ　讃岐　吐鳥

あの雪日あゝ三時の仏屋の灯　紀伊　梅旭

灯のゝゝゝまゝ市ゝ淀急ぶ　大坂　吾萍

新月ゝ向ゝ春　我の鳥　尺艾

うゝひゝや廉急ゝ峠ゝ二日ゝ　外六

[illegible]白に梗概を五來面者人の結[illegible]
[illegible]わハ後の[illegible]
倡[illegible]志[illegible]
[illegible]孝迦[illegible]雅友[illegible]孝
[illegible]社中[illegible]誰[illegible]梓[illegible]
[illegible]育の恩[illegible]報[illegible]云

一　朝園　乙木

蕉門書林　皇都寺町通二條
橋屋治兵衛　梓